

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

中学校区 校番 15 学校名 吉浦中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	生徒が主体的に学習する授業づくりについて工夫改善を進め、学力を向上させる。	学力の向上を図る。 自ら考え表現する力を向上させる。	○第3学年は全国学力学習状況調査の国語、数学、英語において、数学以外は全国平均を下回った。第2学年は標準学力調査の国語、数学、理科、英語において、理科が全国平均を下回った。第1学年は標準学力調査の国語、数学において、数学が全国平均を下回っていた。生徒の実態から勘案すれば努力が認められるが、全学年とも下回っている教科については、学力を向上させることが課題であると考え。 ○アンケートにおいて、「自分の考えを表現しようとする生徒の割合」が、80.1%、「学んだことを活用使用とする生徒の割合」が、89.1%と2項目とも目標値を上回っている。各教員の指導方法の工夫・改善や「考える授業づくり」等が意識された結果と考える。	○課題がある領域、問題について、課題分析を丁寧に行い、改善ポイントを明確にして、計画的継続的に改善ポイントを取り入れた授業を行う。また生徒等に対して、授業外(長期休業期間や試験期間等)での個別指導を行うなどの指導の工夫をし、確実な定着を図っていく。 ○各教員が行っている「考える授業づくり」の実践の効果的な取組について全教職員のものとなるように、情報の共有化を図る。
** 豊かな心	道徳教育を充実させ、道徳的実践力を高める。	自尊感情、自己肯定感を向上させる。 協働できる力を向上させる。 地域のよさに気づかせ、郷土愛を育む。	○アンケートにおいて、「自分には良いところがあると思う生徒の割合」が、80.6%、と目標値を下回っているが、昨年度目標値であった80%より上回っている状況である。年々達成数値が上がっていることから取組の成果であると考え。 ○アンケートにおいて、「周りの人と協力しながら自分の役割を学習や活動で果たしている生徒の割合」が、94.9%と目標値を15ポイント近く上回った。計画的な特別活動や教育相談を実施した成果であると考え。 ○アンケートにおいて、「自分の郷土のよさに気づき、その郷土に貢献したいと考える生徒の割合」が、77.8%と目標値を下回った。昨年度、指定を受けた道徳教育を引き続き取り組んでいるが、向上させることに至っていない。	○生徒の様子をしっかり把握し、生徒への直接の感謝・評価の言葉かけ、学校、学年、学級の各通信とHPを活用した感謝・評価の言葉かけ等を積極的に進めて行く。また、表彰等も効果的に活用していく。 ○家庭、地域との連携を深め、生徒のがんばり・良さを伝え、保護者・地域からも褒めてもらうことに取り組んでいく。 ○不登校生徒・長欠生徒は依然高い数値を出しており、今後はhyperQUを分析し、学級集団づくりを行っていく。 ○カリキュラムマップを基に、特に総合的な学習の時間を中心に、道徳科、教科等の教育活動において、横断的かつ系統的に郷土愛の育成の取組を引き続き行っていく。また、実施後の振り返りを大切にし、さらなる改善を図っていく。
★ 働き方改革	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整える。	生徒と向き合う時間を確保する。 長時間勤務の削減を図る。	○アンケートにおいて、「児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」が、92.3%と目標値を12ポイント以上と上回った。業務の精選と共に教職員の働き方改革に対する意識が高まった成果と考えられる。 ○「時間外勤務が月80時間を超える教職員の月平均人数」は、上半期で3名と大幅にポイントが下回った。	○引き続き、会議時間の短縮、学校行事等の精選や実施内容・方法等の改善を図っていく。 ○段取り等タイムスケジュール感をもっての勤務ができるよう、更なる声かけをし、個々の意識改革を図っていく。